

2010年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

特定非営利活動法人 Triple P Japan

「未成年者飲酒予防のための、親向け前向き子育てセミナーの実施」

遺伝、気質、環境要因全てが、子どもの発達形成に寄与しますが、国連(United Nations Office on Drugs and Crime)のレポート「薬物乱用防止のための子育てスキルトレーニングプログラム実施のためのガイド(2009年)」によると、「温かさに欠けている家庭、しつけが不十分な家庭で育つ子どもたちは、飲酒や薬物乱用につながる『問題行動や感情の問題』を引き起こすリスクが非常に高い」と明記されています。つまり、適切な家庭環境は、薬物乱用や飲酒を含む、様々な危険な行動や感情の問題から子どもを守る強力な予防因子となり、これは研究により明らかになっています。

同レポートによると、仲間からの圧力(ピアプレッシャー)は、子どもが薬物や飲酒に手を付ける時の大きな要因として認知されていますが、前向きな家庭環境は、子どもがこのような仲間引き込まれないための、主要な防御因子となります。それは、思春期の子どもの仲間の選択は、その子どもが自分の親とどのような関係性を構築しているかに大きく左右されるからです。思春期の子どもと前向きな親子関係が維持できている時、子どもは自分により影響を与える仲間を選びやすくなります。

このことから、子どもへの啓発だけでなく、親にも未成年の飲酒の危険性を伝え、飲酒に導かれない家庭環境を作る必要性和その方法を、幼少期に伝えることが大切です。

そこで今回は、4歳～10歳の子ども親対象の「前向き子育て講座」を4回開催し、未成年者飲酒の危険性、及び未成年飲酒の大きな防御因子となる良好な家庭環境作りの必要性和その方法を伝えると同時に、受講親にインターネット口コミサイトへ講座内容や感想を投稿してもらうことで、より多数の親への啓発を目指しました。

下記の講座を実施しました。(重複内容あり)

第1回目講座:「未成年者の飲酒の実態とその予防方法」と「前向き子育て講座1」

第2回目講座:「未成年者の飲酒の実態とその予防方法」と「前向き子育て講座2」

第3回目講座:「前向き子育て講座3」

第4回目講座:「未成年者の飲酒の実態とその予防方法」と「トリプルPフォローアップ講座」

4回合計参加者数は26名でした。

講座終了後、5段階評価(5:大変満足、4:満足、3:ふつう、2:やや不満、1:大変不満)で、アンケートを実施しました。「未成年の飲酒の実態と危険性」の5段階評価は、合計87点であり、平均が4.0(満足)でした。「前向き子育て講座」は、合計112点であり平均が4.3(満足)でありました。平均点が高かったことから、参加者にとって、満足度の高い内容であったことが読みとれます。

また、3名の方がご自身のブログ記事に講座内容と感想を掲載してくださり、その合計閲覧数(PV数)は約700名でした。今回参加できなかった親にも講座概要を伝えることができ、多くの親への啓発ができたと言えます。